

## 涙が出た。救われた。これは自分だった。

周りが残業しているから、認められたいから、しんどいなんて言えない。もっと頑張らなきゃ。もっと。もっと。でもその先に何かがあるか考えたことはある？あなたは笑っている？本の中の話は他人事ではなく、自分かもと気がつく。読んだ後、少し軽くなっているはず。

書名：死ぬくらいなら会社辞めればができない理由（ワケ）

著者：汐街コナ

おすすめする人： 廣江 文香

## どの頁もザリガニのことしか書いていません

ザリガニがなぜハサミをふるうのか？そんな当たり前の仕組みがスゴイ。ザリガニに熱い眼差しを注ぎ、導き出したのは生きものの共通原理だった。世界のザリガニ事情から、ザリガニ料理の食レポ、そしてザリガニの性格形成まで。専門的な難しい内容も含まれますが、深いザリガニ愛を一貫して感じられる新書です。

書名：ザリガニはなぜハサミをふるうのか 生きものの共通原理を探る

著者：山口恒夫

おすすめする人： 吉井 綾子

## 最新の生き方は『魔女』かもしれない

学校へ行かないことを選んだ主人公が、西の魔女のもとで魔女修行を受ける……。ファンタジーな物語を予感させながら、本質は自分らしく生きるための指南書です。何を辛いと感じ、何を幸せと思うのか、何にも影響されず何時でも自分で決められるのが『魔女』。強い言葉ではなく、優しくユーモラスに語りかける自己啓発本。

書名：西の魔女が死んだ

著者：梨木香歩

おすすめする人： 神谷 重毅

## 水墨画によって、人生の色を取り戻すお話

両親を交通事故で亡くしてから、色の無い生活を送っていた主人公の青山霜介。アルバイトで水墨画の有名画家である篠田湖山と出会い、突然内弟子となることに。この作品は、主人公とともに私たちの価値観を成長させてくれる物語である。白黒の濃淡で描かれる世界は、色の無い生活に、なぜか鮮やかな色を与えてくれる。

書名：線は、僕を描く

著者：砥上裕將

おすすめする人： 迫 千尋

## 一生懸命生きる必要なんてない！？

「チクショウ、もう限界だ。」毎日を一生懸命生きすぎて疲れた筆者による共感だらけのエッセイ（言い訳？）40歳手前で仕事を辞めた筆者の生き様を通して、今を必死に生きる人々の悩みや不安を吹き飛ばす。自分の生き方に疑問を持つ全ての人、まずはこの本を読んでみよう。

書名：あやうく一生懸命生きる場所だった

著者：ハ・ワン

おすすめする人：加藤 妃那子

## 「本と話してみたい」そんな願いが叶う場所

この本は「まほろ本」という、人や動物の魂が宿った本をあつかう書店の物語です。まほろ本の「まほろ」は、まほろば＝素晴らしい場所という意味の言葉からきています。その意味のとおり、とても素敵な本がたくさん「いる」書店の物語なので、読んだらきっと「この書店が実在していたら…」と希うと思います！

書名：神さまのいる書店 まほろばの夏

著者：三萩せんや

おすすめする人：杉本 桃葉

## あなたはどの涙を選ぶ？

この本は、12篇の短篇小説集です。12篇というたくさんのお話が1冊につまっているのですが、どれもちがう話で共通していることは登場人物が必ず何かしらの理由で涙を流していることです。だから、その涙した理由を読んでいくうちになぜか自分も泣いてしまう心が温まるそんな本です。

書名：99のなみだ・心

著者：リンダブックス編集部編

おすすめする人：水野 心愛

## 文明に翻弄されながらも生きたアイヌの人々

故郷である樺太を奪われ、生き方さえも変えられてしまったアイヌの人々。だが彼らは生きる事の熱を追い求め時代や文明に翻弄されながらも強く生きていた。そんな彼らに振りかかる理不尽。それは今を生きる私たちにとって決して無関係なことではない。領土問題について改めて考えさせられる本。

書名：熱源

著者：川越宗一

おすすめする人：松田 茜